

2018年8月1日付で発表された『カトリック教会のカテキズム』2267改訂版の日本語訳は、2018年12月13日に開かれた2018年度第2回臨時司教総会において、以下のとおりに承認・確定された。以後、当該箇所はこれに置き換えられる。

## 死刑

2267 合法的権威がしかるべき手続きを経た後に死刑を科すことは、ある種の犯罪の重大性に応じた適切なこたえであり、極端ではあっても、共通善を守るために容認できる手段であると長い間考えられてきました。

しかし今日、たとえ非常に重大な罪を犯した後であっても人格の尊厳は失われないという意識がますます高まっています。加えて、国家が科す刑事制裁の意義に関して、新たな理解が広まっています。最後に、市民にしかるべき安全を保障すると同時に、犯罪者から回心の可能性を決定的に奪うことのない、より効果的な拘禁システムが整えられてきています。

したがって教会は、福音の光のもとに「死刑は許容できません。それは人格の不可侵性と尊厳への攻撃だからです」<sup>1)</sup>と教え、また、全世界で死刑が廃止されるために決意をもって取り組みます。

1) 教皇フランシスコ「『カトリック教会のカテキズム』公布25周年の集い参加者への講話（2017年10月11日）」（*L'Osservatore Romano*, 13 ottobre 2017, 5）。